

Map 16 奄美群島の豊かな自然を守るために 沿岸域(マングローブ・サンゴ礁・藻場)

沿岸域とは、海岸線を挟む陸域から海域に及ぶ区域です。海岸林や砂丘植生、マングローブ、干潟、サンゴ礁などの様々な環境が形成され、多様な生きものが生息・生育しています。

マングローブ

マングローブとは、熱帯や亜熱帯の河口などの海水と淡水が混ざり合う汽水域に生育する特殊な植物の総称です。奄美大島の住用川と役勝川の合流する河口域に、71ha以上のメヒルギ、オヒルギなどからなる群落広がるほか、奄美大島の一部地域に分布しています。マングローブ林はリュウキュウアユなどの魚類の稚仔魚や甲殻類や貝類の幼生の生育場所になります。干潮時には、干潟の有機物を食べるカニ類、干潟を飛び跳ねるミナミトビハゼや、それらを捕食するサギ、シギなどが見られます。

サンゴ礁

サンゴ礁とは、サンゴを中心とした生物たちが長い時間をかけて作った地形のことです。奄美群島では、各島の海岸線のほとんどで発達したサンゴ礁が見られます。

喜界島は、世界有数の速度で隆起しており、希少なサンゴ礁段丘の景観を呈しています。与論島は、奄美群島で最も堡礁(ほしょう)が発達しており、サンゴ礁と陸地の間に深い海(礁湖)があります。

藻場

藻場は、海藻が繁茂する場所で、海面下の海の森とも言われます。藻場は、多数の水生物の生活を支え、産卵や幼魚仔魚の生育の場となるほか、水中の有機物を分解し、栄養塩類や炭酸ガスを吸収し、酸素を供給するなど海水の浄化に大きな役割を果たしています。

藻場は構成種から見て、アマモ場、ガラモ場、アラメ場、カジメ場、コンブ場、ワカメ場などのタイプに分かれます。環境省が実施した藻場調査(2018～2020年)では、奄美大島の北部、与路島、与論島でアマモ場の分布が確認されています。

凡例

植生調査 平成21(2009)年	
	マングローブ林 海水と淡水が入り混じる沿岸に生育する植物群の総称。世界の熱帯から亜熱帯に分布する。
	塩沼地植生 小湾や河口の波浪の影響が少ない塩沼地に形成される草本群落または低木群落。
	砂丘植生 海岸砂丘に形成される矮生低木群落または草本群落。
	海岸断崖地植生 海岸断崖地に形成される草本群落。
	隆起サンゴ礁植生 亜熱帯地方の海岸に見られる、隆起珊瑚礁に形成される草本群落または樹高の低い低木群落。
浅海域生態系現況把握調査 平成29～令和3(2017～2021)年	
	造礁サンゴ群集被度5%未満
	造礁サンゴ群集被度5～25%
	造礁サンゴ群集被度25～50%
	造礁サンゴ群集被度50～100%
	離水サンゴ礁(隆起サンゴ礁) 離水サンゴ礁は、サンゴ礁地域の地盤上昇によって、サンゴ礁が現海面より上に見られるものを指す。隆起サンゴ礁とも呼ばれる。
	深い水深帯
	造礁サンゴ群集被度5%未満
	造礁サンゴ群集被度5～50%
	造礁サンゴ群集被度50～100%
	深いサンゴまたは岩
藻場調査 平成30～令和2(2018～2020)年	
	アマモ場 アマモの仲間から構成される藻場で、主として内湾や入り江の波の静かな平坦な砂泥底に形成される。

[出典]
・植生調査 「第6-7回自然環境保全基礎調査植生調査報告書」(環境省生物多様性センター) (http://gis.biodic.go.jp/BiodicWebGIS/Questionaires?kind=vg67&filename=vg67_46.zip)よりマングローブ群落を抜粋して作成
・サンゴ 「第4回自然環境保全基礎調査(海域生物環境調査)報告書」(環境省生物多様性センター) (http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-025.html?kind=sa_46.zip)
・藻場 「自然環境保全基礎調査(藻場調査)報告書」(環境省生物多様性センター) (http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-025.html?kind=mo_46.zip)
・市町村界 「国土数値情報(行政区域データ)」(国土交通省) (https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html#prefecture46)
・陰影 基礎地図情報数値標高モデル10mメッシュ(標高)より作成
・背景図 地理院タイル(淡色地図)

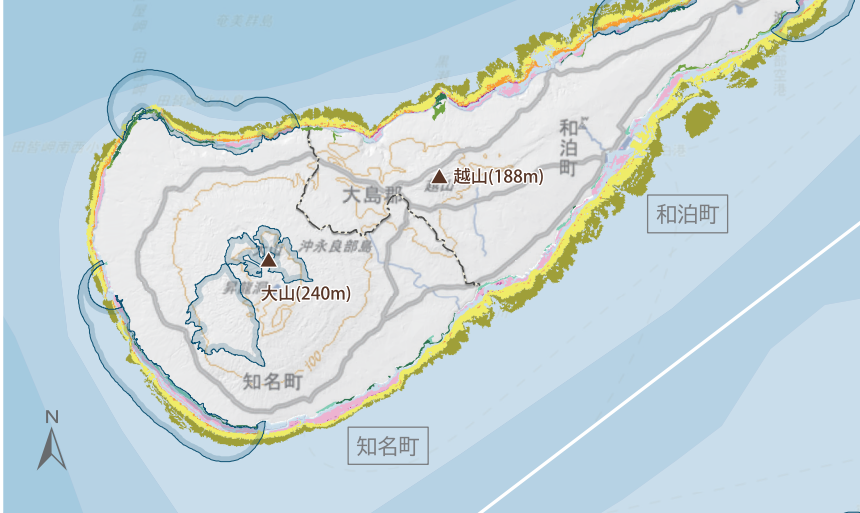


索引図

与論島



沖永良部島



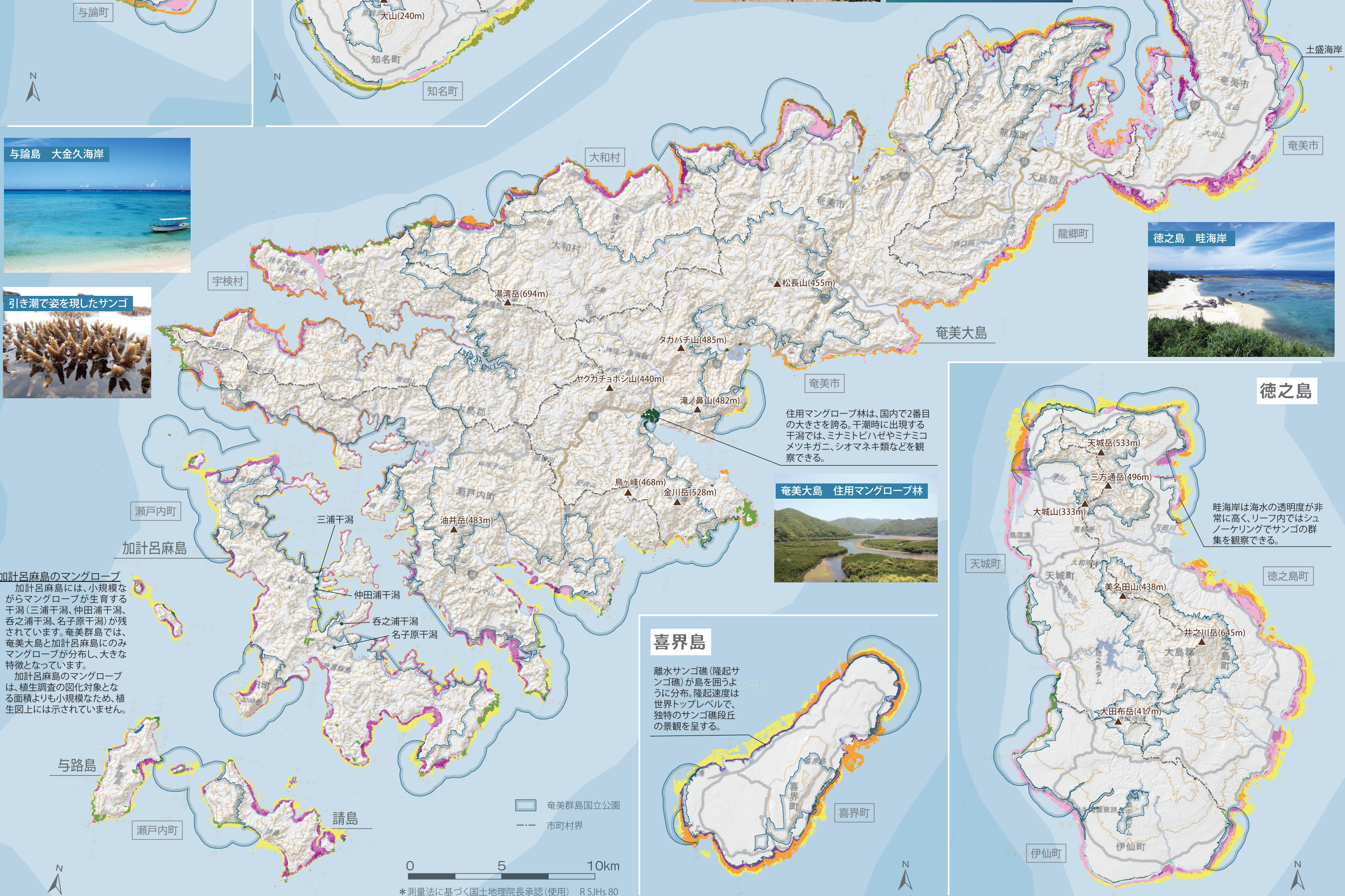
加計呂麻島

加計呂麻島のマングローブ
加計呂麻島には、小規模ながらマングローブが生育する干潟(三浦干潟、仲田浦干潟、呑之浦干潟、名子原干潟)が残されています。奄美群島では、奄美大島と加計呂麻島にのみマングローブが分布し、大きな特徴となっています。加計呂麻島のマングローブは、植生調査の図化対象となる面積よりも小規模なため、植生図上には示されていません。

与路島



奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島



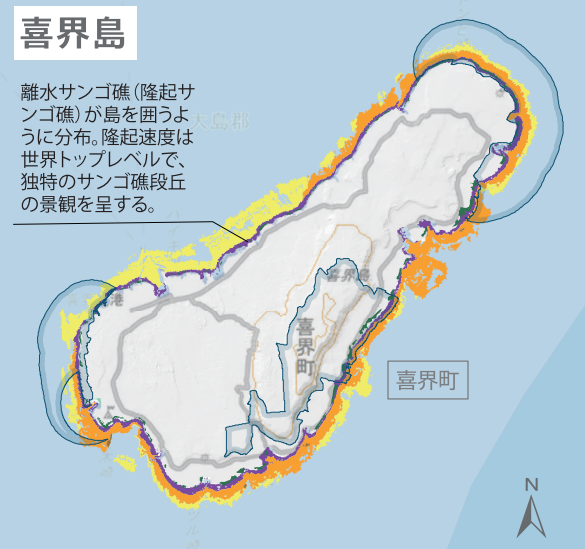
住用マングローブ林は、国内で2番目の大きさを誇る。干潮時に出現する干潟では、ミナミトビハゼやミナミコメツキガニ、シオマネキ類などを観察できる。

奄美大島 住用マングローブ林

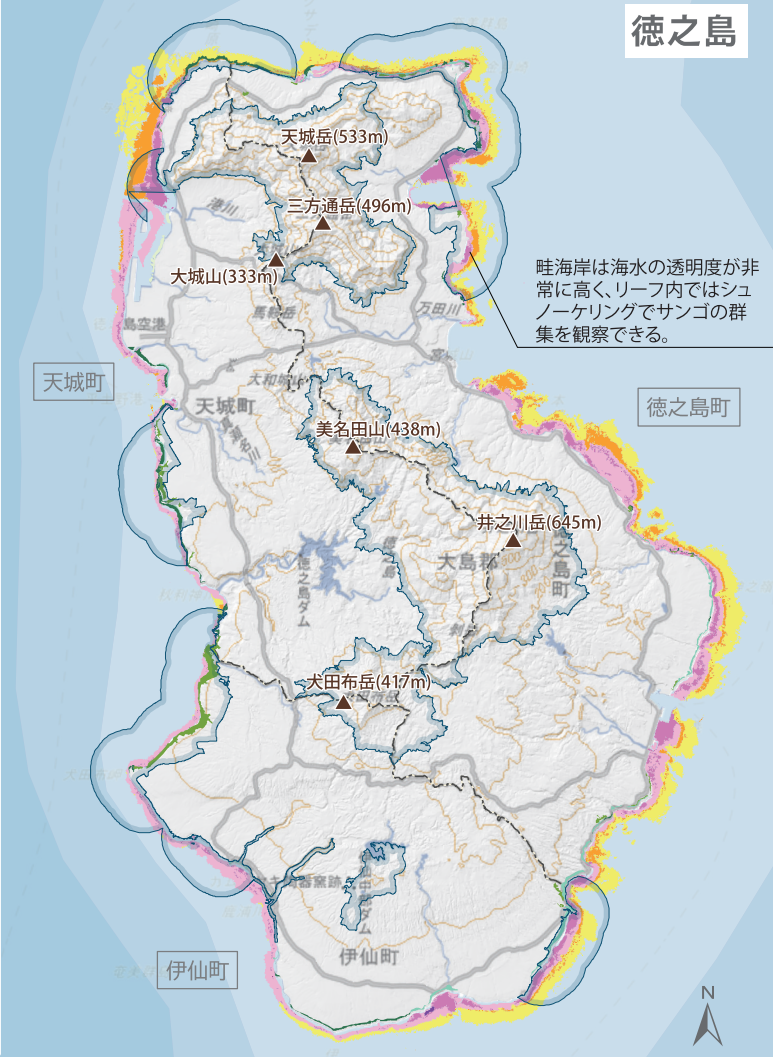


喜界島

離水サンゴ礁(隆起サンゴ礁)が島を囲うように分布。隆起速度は世界トップレベルで、独特のサンゴ礁段丘の景観を呈する。



徳之島



畦海岸は海水の透明度が非常に高く、リーフ内ではシュノーケリングでサンゴの群集を観察できる。